

## 中濃農林事務所の普及活動状況 令和3年7月25日現在

### 今月の重点活動

#### ■岐阜県担い手リーダー 退任感謝状贈呈式と新任認定証交付式

中濃農林事務所は6月29日、中濃総合庁舎農林事務所長室において、令和2年度をもって退任した指導農業士への感謝状贈呈式と令和3年度新しく青年農業士となる認定証交付式を行った。今年度も新型コロナウイルス感染症対策のため、県全体での贈呈式、交付式は行われず、担い手リーダーの地元での行事となった。

式には、退任した指導農業士1人、新規の青年農業士1人、武儀地区指導農業士会会長の参加があった。まず退任した指導農業士に対し農林事務所長から県の感謝状と記念品、武儀地区指導農業士会会長から県指導農業士連絡協議会の感謝状を手渡し、15年間の指導農業士の任務を労った。次に新しい青年農業士に農林事務所長より認定証とバッジが手渡された。最後に2人からそれぞれの担い手リーダーへの想いを話してもらい、先人が積み上げた施設園芸の産地が順調に世代交代されている状況を再確認した。



【贈呈式の後の集合写真】

(農業普及課)

### ぎふ農業・農村を支える人材育成

#### ■研修生 新規就農者集合研修始まる

7月9日、JAめぐみの主催による「新規就農者集合研修」の第1回講義がJAめぐみの本店で開催され、中濃管内7名を含む13名の研修生、新規就農者が出席した。

本研修は、研修拠点等による実践研修を補完する知識や技術の習得を目的に開催されており、全15回の開催が計画されている。今年度は岐阜県が新型コロナウイルスまん延防止等重点措置の対象地域となったことを受け、当初予定を延期しての開催となった。

今回は「就農支援制度・就農計画」の講義で、JAめぐみの・可茂農林事務所と役割分担しながら講師を行った。

農業普及課では、研修生の知識・技術習得および就農準備について、関係機関と連携しながら推進していく。



【研修会の様子】

関係機関と連携しながら推進していく。  
(地域支援係)

### 安心で身近な「ぎふの食」づくり

#### ■水稲 害虫調査

昨年の大発生し、水稲晩生品種を中心に坪枯れ症状を引き起こしたトビイロウンカが、今年度は例年より早く県内で飛来確認されており、7月8日付けで病害虫発生予察注意報が発令されている。また、昨年水稲の不稔籾の多発は、イネカメムシが出穂後の籾の基部を吸汁することにより、玄米肥大が初期段階で停止することが大きな原因と考えられている。

これを受けて中濃農林事務所では、JAと連携して生産者向け技術資料を作成し、注意喚起を行った。また、7月14日に管内10ヶ所で払い落とし調査を、7月15日に前年度不稔で減収となった水田ですくい取りおよび株元観察によるイネカメムシの発生量調査を実施した。調査の結果、トビイロウンカは確認されなかったが、イネカメムシは数頭の発生を確認した。

今後は定期的に調査を継続し、生産者に向けた適期防除の情報を提供することで、水稲の収量・品質の確保を図っていく。



【すくい取り調査の様子】

(地域支援係)

## ■ 水稲米粉用品種「こなゆきひめ」 現地検討会

県農業技術センターが開発した県内初の米粉専用品種「こなゆきひめ」は、パンや菓子などの加工時のふくらみが良く、米粉臭が少なく、加工に利用する素材本来の風味を活かされると評価されている。

関市の6次産業化に取り組む経営体が、県農業技術センターの安定生産技術を導入した実証ほを設置し、今年から栽培を開始している。

6月28日、現地検討会が実証ほ場で行われ、生育状況の確認や栽培管理方法等を確認した。

農業普及課では、関係機関と連携し、安定的に収量が確保できるよう現地実証ほの栽培を支援していく。(地域支援係)



【現地検討会の様子】

## ぎふ農畜水産物のブランド展開

### ■ ゆず 6次産業化エグゼクティブプランナー派遣

かみのほゆず株式会社は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、加工品の販売が低迷していることから、7月9日、6次産業化エグゼクティブプランナーの派遣を受けた。

エグゼクティブプランナーの指導により、従来の地元「道の駅」直売所等への委託販売に加え、粗利率が高い「ゆずドレ」「ゆずしぼり」等の卸売販売を進めるための営業活動を開始することになった。また、青果を自然食品取扱店舗に販売することも検討された。

農業普及課は6次産業化の支援を行うとともに、これまでどおり「かみのほゆず産地方針」に基づき、加工原材料となるゆずの生産および出荷拡大に努めていく。(地域支援係)



【プランナー指導の様子】

### ■ キウイフルーツ 「ほらどキウイを未来につなごうプロジェクト」出陣式

関市洞戸地域の特産キウイフルーツの生産拡大と産地維持を目指す、「ほらどキウイを未来につなごうプロジェクト」が7月1日に立ち上がった。関係機関が連携し、苗木500本を1haに定植し、生産量を現在の30tから50tに増産する計画で、知名度向上や新商品開発、新規就農者支援などにも取り組んでいく。

「ほらどキウイプラザ」で開かれた出陣式には、プロジェクトメンバーであるJAめぐみの、生産者、関係機関、パートナー企業が出席し、地域が誇るブランドキウイの発展を誓った。

農林事務所は協力機関として参画しており、新植の指導など技術支援を行っていく予定である。(地域支援係)



【出陣式の様子】

### ■ さつまいも 適切な施肥量実証圃場における生育調査

6月28日と30日に、さつまいもの適切な施肥量を明らかにするために設置している実証圃場2圃場の生育調査を実施した。

実証圃場には、10a当たり施肥量が窒素成分で2kg(慣行)、4kg、6kgと異なる区を設置し、さつまいもの蔓長、蔓数、節間及び葉色等を測定した。

慣行区に比べ、実証区の蔓数が多い傾向があったが、蔓の長さについては判然としなかった。

農業普及課では、引き続き実証圃場の生育・収量調査を実施するとともに、実証圃場の地力窒素を測定し、適切な施肥量を確立し、生産者の栽培技術の向上を支援していく。(地域支援係)



【実証圃場の様子】